



# JAPAN P&I NEWS

組合員各位

## 荒天時の操船注意喚起－2026年台風およびハリケーン予測

北西太平洋域においてはすでに台風シーズンに入っており、大西洋域においてもハリケーンシーズンの到来が間近に迫っています。航行の際には、最新の気象情報を入手し、十分に注意して荒天対策を実施してください。今般、気象情報提供会社 [StormGeo](#) から、2026年の台風およびハリケーンシーズンに関する情報を入手しましたので、添付のとおりご参考に供します。

錨地で避泊する場合は、機関準備等の対策を早めに取り、走錨に十分注意してください。また、荒天海域での錨泊や荒天操船を行う場合には、向い波・追い波での荒天操船にも十分留意してください。

荒天操船についての解説は、当組合「[動画で知る](#)」(<https://www.piclub.or.jp/seminar/videos>)にてご覧いただけます。

### 関連動画

- ・ 走錨事故防止
- ・ 気象・海象
- ・ 荒天操船 向い波航法
- ・ 荒天操船 追い波航法

以上

### 添付資料：

2026 Northwest Pacific Typhoon Season Outlook（日本語版）  
2026 Northwest Pacific Typhoon Season Outlook  
2026 Atlantic Hurricane Season Outlook（日本語版）  
2026 Atlantic Hurricane Season Outlook

# 2026年北西太平洋域における台風の見通し



**Chris Hebert**  
Senior Meteorologist,  
TropicsWatch Manager

## 2026年台風シーズン予測

### El Niñoエルニーニョ現象の再来

**2026 Season Forecast**

28 Named Storms (+)  
17 Typhoons (+)

**30-yr Average**

26 Named Storms  
16 Typhoons



2026年リスク地域

## 今シーズンの見通し

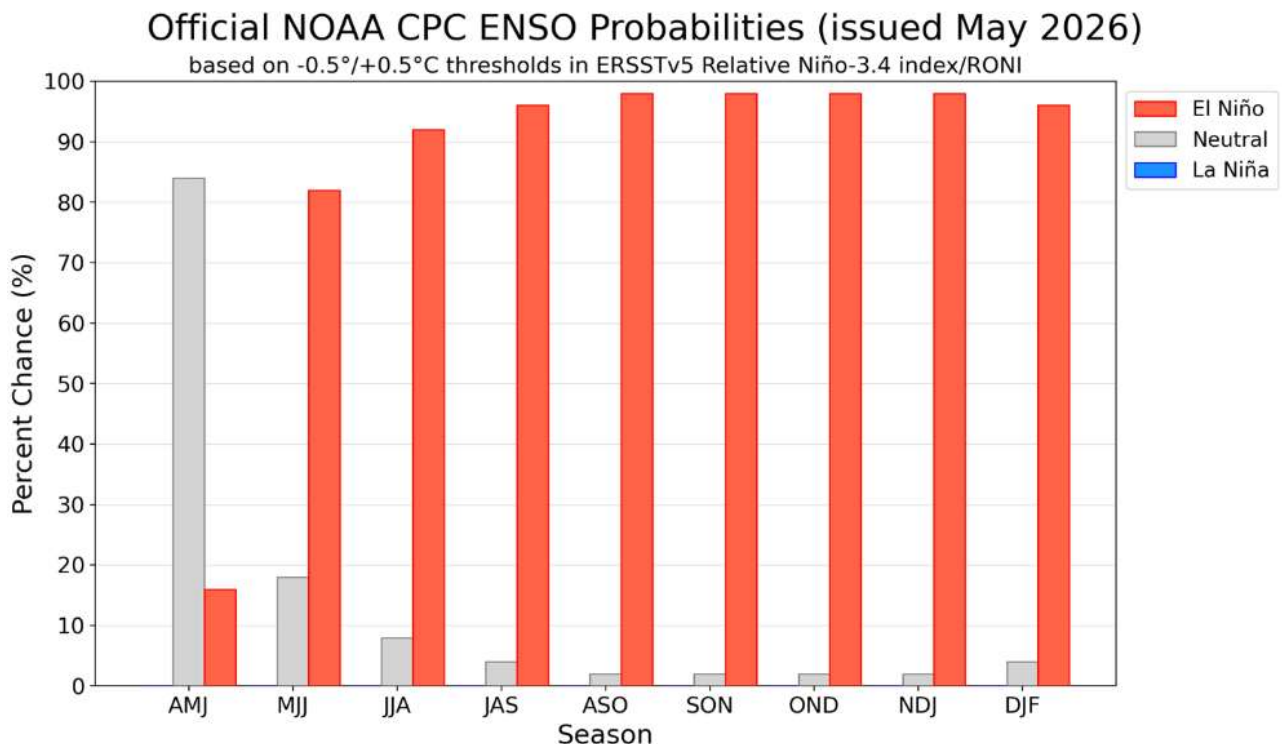
2025年の台風シーズンでは、合計27個の台風・熱帯暴風雨が発生し、そのうち13個が台風にまで発達しました。さらに、その13個のうち6個は、最大風速100ノット（約185km/h）以上の「非常に強い台風」となりました。シーズン中、最も強かった台風は「Ragasaラガサ」で、最大風速は145ノット（約270km/h）に達しました。Ragasaは9月17日にフィリピン海で発生し、9月22日には最盛期の勢力を維持したままルソン島北方を西へ進みました。その後、9月25日に中国南部に上陸をしました。昨シーズンにおいて特に影響が大きかった地域は、フィリピン、ルソン島中部から台湾にかけてでした。一方、日本へ影響を与えた台風はありませんでした。

今シーズンはこれまでに5個の台風・熱帯暴風雨が発生しています。その中には、4月中旬にスーパー台風「Sinlakuシンラク」がサイパンおよび北マリアナ諸島を直撃し、大きな影響をもたらしました。

## El Nino エルニーニョ現象 / La Nina ラニーニャ現象

北西太平洋における台風活動を左右する主な要因の一つが、エルニーニョ・南方振動（ENSO）の状態です。ENSOは、「海洋ニーニョ指数（ONI）」によって示されます。これは熱帯太平洋の「ニーニョ3.4海域」における海面水温の平年差を、3か月平均で計算したものです。海面水温が3か月間にわたり平年より0.5°C未満の場合「ラニーニャ現象」、逆に0.5°Cを超える場合は「エルニーニョ現象」と判断されます。

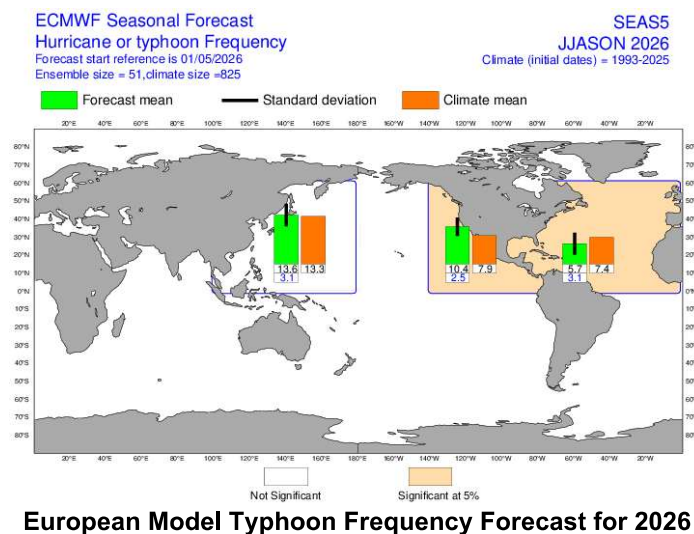
昨シーズンの熱帯太平洋の海水温は、中立状態から弱いラニーニャ傾向でした。2026年に入り、ラニーニャ現象は終息し、急速に発達するエルニーニョ現象へ移行しています。現在のところ、すべての気象モデルは夏から秋にかけて強いエルニーニョ現象が継続すると予測しています。今回のエルニーニョ現象は、観測史上でも最も強い事例の1つとなる可能性があり、南シナ海およびフィリピン周辺では下降気流が強まり、台風活動は抑制される見込みです。一方で、フィリピン東方海域から東シナ海、日本方面にかけて、台風の活動がより活発になる可能性があります。



出典：<https://iri.columbia.edu/our-expertise/climate/forecasts/enso/current/>

## ヨーロッパの気象モデルにおける予報

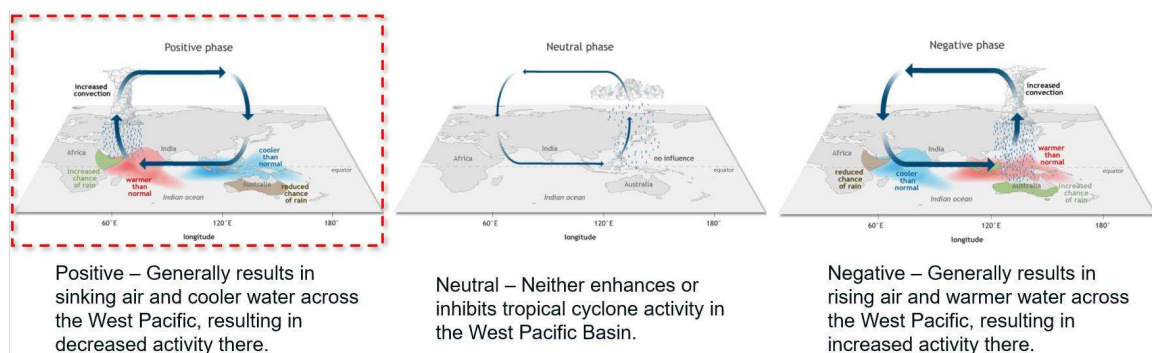
毎年、ヨーロッパの気象モデルは世界各地における季節的な熱帯低気圧予測を発表しています。2026年については、同モデルは6月から11月にかけて平年並みとなる23個の熱帯低気圧の発生を予測しており、そのうち13、14個が台風に発達すると見込んでいます。なお、これらの数値には、すでに発生した5個の熱帯低気圧および台風1つは含まれておりません。



## インド洋ダイポール (IOD)

北西太平洋の台風活動に大きく影響する要因の一つに、「インド洋ダイポールモード (IOD)」があります。IODとは、インド洋東部と西部域における海面水温の差により定義されます。

現在のところ、今シーズンは「正のIOD」となる見込みであり、このため、今シーズンにおいて南シナ海およびフィリピン周辺における台風の発達を抑制する要因になると推測されています。



出典: <http://www.bom.gov.au/climate/enso/#tabs=Indian-Ocean>

## 海面水温度

北西太平洋では、台風シーズン中は通常、海水温が十分高いため、台風発生の大きな制約要因になることはありません。ただし、これまでのところ南シナ海とフィリピン海において海面水温が平年を下回っています。台風の発生そのものを妨げるほど低い海水温ではありませんが、非常に強い大型台風の発生数は限られる可能性があります。一方、台湾から日本北部にかけての海面水温は平年を大幅に上回っており、強い台風が発達しやすい環境になる見通しです。

熱帯低気圧および台風の総数は平年よりやや多くなる可能性があるものの、その活動の多くはフィリピン東方海域に集中するとみられます。ルソン島から中国東部、日本にかけての地域では、今シーズンのリスクは平年並みとなる見込みです。

## 当社による台風発生予測

南シナ海中部から南部では、平年より台風の活動が少なくなるとみえています。

これまでに発生した5個の熱帯低気圧はいずれも、フィリピン海またはマリアナ諸島付近で発生しており、この傾向は2026年も継続する見込みです。熱帯低気圧および台風の総数は平年よりやや多くなる可能性があるものの、その活動の多くはフィリピンの東方海域に集中するとみえています。ルソン島から中国東部、および日本にかけてのエリアでは、熱帯低気圧・台風による影響は平年並みと予想しています。

今シーズンにおける台風と熱帯低気圧の発生総数は28個と予測しており、これは過去30年間の平均出現数26個をやや上回る見込みです。台風の出現数は17個で、こちらも過去30年間の平均数16個を上回る見通しです。

最新の荒天関連情報はこちらをご覧ください

[StormGeo.com/weather-intelligence](https://stormgeo.com/weather-intelligence)

# Outlook for the 2026 Northwest Pacific

May 2026



**Chris Hebert**  
Senior Meteorologist,  
TropicsWatch Manager

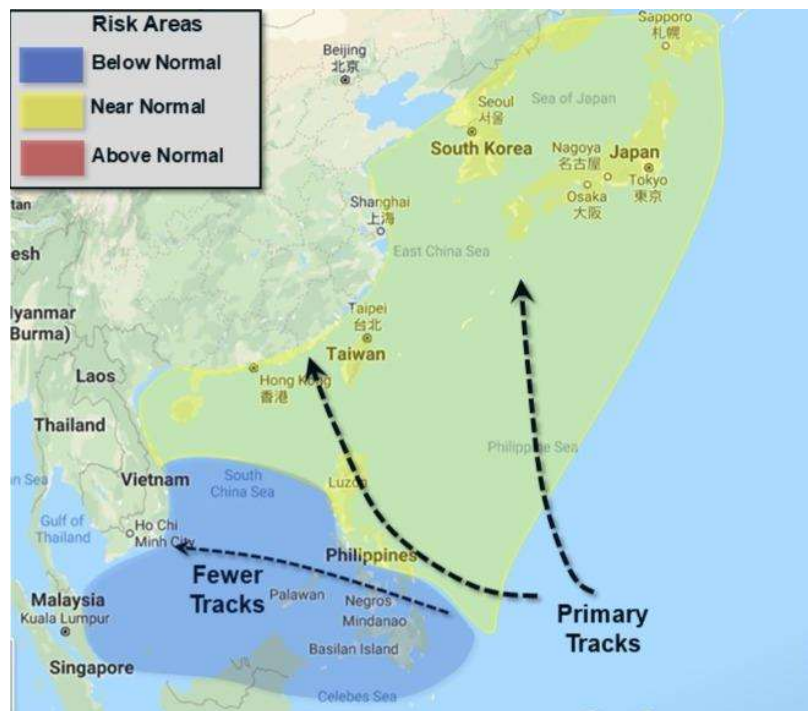
## 2026 Pacific Typhoon Season Outlook: A Return of El Niño

**2026 Season Forecast**

28 Named Storms (+)  
17 Typhoons (+)

**30-yr Average**

26 Named Storms  
16 Typhoons



2026 Risk Areas

### Season Outlook

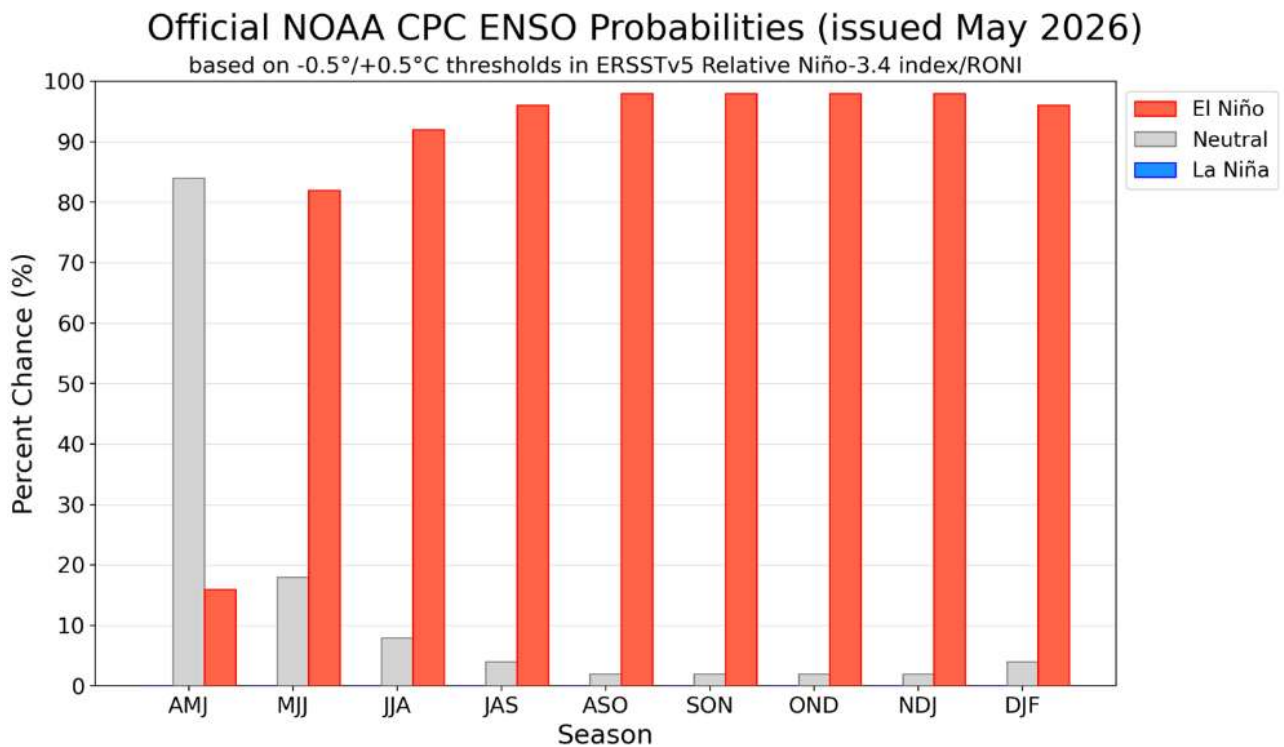
The 2025 West Pacific typhoon season ended with a total of 27 named storms, of which 13 became typhoons. Of the 13 typhoons, 6 became intense typhoons with max sustained wind of 100 kts (115 mph) or higher. The strongest typhoon was Ragasa, which had maximum sustained winds of 145 kts (165 mph). Ragasa formed in the Philippine Sea on the 17th of September and tracked westward north of Luzon on the 22nd of September at its peak intensity. Ragasa made its final landfall in southern China on the 25th of September. The prime impact areas last season extended from central Luzon to Taiwan. No typhoons impacted Japan last season.

So far this season, there have been five named storms, including Super Typhoon Sinlaku, which struck Saipan and the Northern Mariana Islands in mid-April.

## El Niño/La Niña

One primary driver of typhoon activity in the Northwest Pacific is the state of El Niño Southern Oscillation (ENSO). ENSO is represented by the Oceanic Niño Index (ONI), which is defined as the 3-month average surface temperature anomaly for the Niño 3.4 region in the Tropical Pacific. When the sea surface temperature anomaly is less than 0.5C below normal over a three-month period, it is identified as a La Niña. Conversely, when the average sea surface temperature anomaly is greater than 0.5C for a three-month period, it is identified as an El Niño.

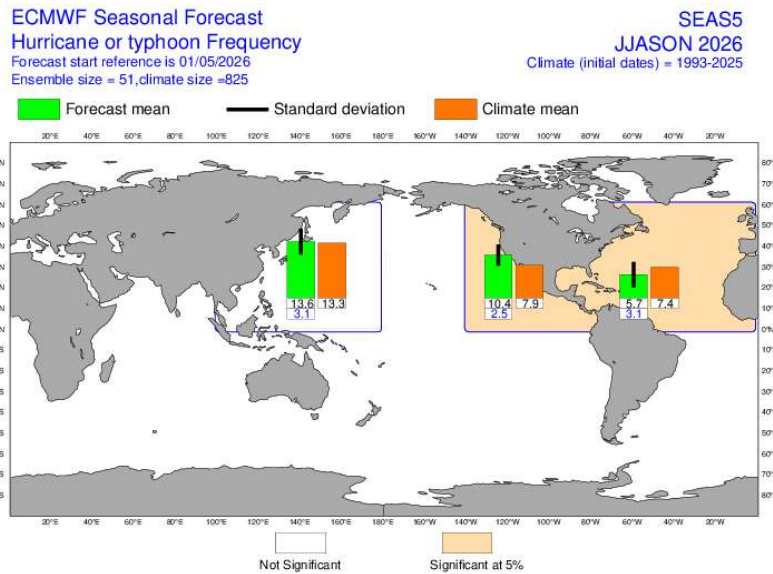
Last season, water temperatures in the Tropical Pacific were neutral to a weak La Niña. For 2026, La Niña has faded away to a rapidly developing El Niño. Currently, all computer models are predicting a strong El Niño through the summer and autumn. The developing El Niño could be one of the strongest on record. This would result in sinking air over the South China Sea and Philippines, reducing activity there. More activity may be concentrated east of the Philippines and northward toward eastern China and Japan.



Source: <https://iri.columbia.edu/our-expertise/climate/forecasts/enso/current/>

## European Model Seasonal Forecast

Each year, the European model produces seasonal tropical cyclone forecasts around the world. For 2026, the European model is predicting a near normal 23 named storms from June through November, and 13-14 typhoons through during that same period. These numbers do not include the 5 named storms and one typhoon that have already occurred.

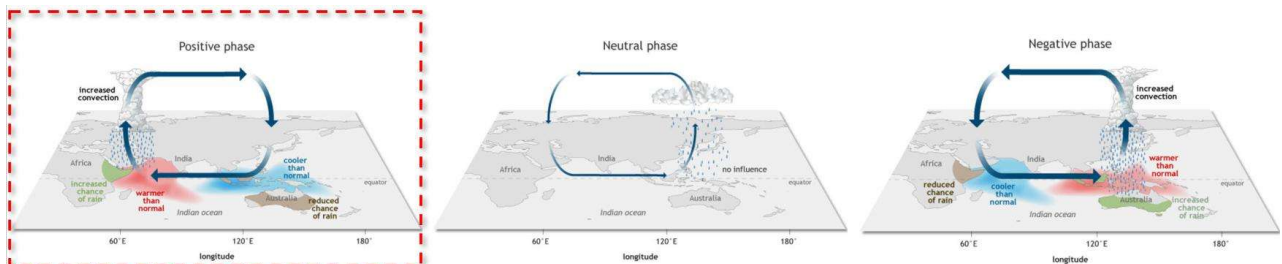


European Model Typhoon Frequency Forecast for 2026

## Indian Dipole (IOD)

Another feature which can significantly influence Northwest Pacific typhoon activity is the Indian Ocean Dipole (IOD). The IOD is defined by the difference in sea surface temperatures between the eastern and western tropical Indian Ocean.

The current forecast is for a positive IOD for the coming typhoon season. This would be an inhibiting factor as far as typhoon development this season across the South China Sea and Philippines.



Positive – Generally results in sinking air and cooler water across the West Pacific, resulting in decreased activity there.

Neutral – Neither enhances or inhibits tropical cyclone activity in the West Pacific Basin.

Negative – Generally results in rising air and warmer water across the West Pacific, resulting in increased activity there.

Source: <http://www.bom.gov.au/climate/enso/#tabs=Indian-Ocean>

## Water Temperature

Water temperatures in the northwest Pacific are generally not a major issue during typhoon season, as the water is always warm enough for typhoons to form. However, water temperatures so far this season are cooler than average across both the South China Sea and the Philippine Sea. While the water isn't cool enough to prevent typhoons from forming, the cooler water may limit the number of very strong typhoons in these two regions this season. Water temperatures from Taiwan through northern Japan are well above normal, which would provide a favorable environment for stronger typhoons.

## Our May Forecast

The one thing that seasonal predictors agree on is that the central to southern South China Sea will have less activity than normal this season. So far this season, the five named storms all formed in the Philippine Sea or near the Marianas. We expect this pattern to continue in 2026. While the total number of named storms and typhoons may be a little higher than normal, much of the activity may be concentrated east of the Philippines. The region from Luzon through eastern China and Japan will be at normal risk levels this season.

We are predicting a total of 28 named storms this season, which is a little above the 30-year average of 26. As for typhoons, we are predicting a total of 17 this season, which is above the 30-year average of 16 typhoons.

Find our Severe Weather resources at  
[StormGeo.com/weather-intelligence](https://stormgeo.com/weather-intelligence)

# 2026年 大西洋域におけるハリケーンシーズンの見通し



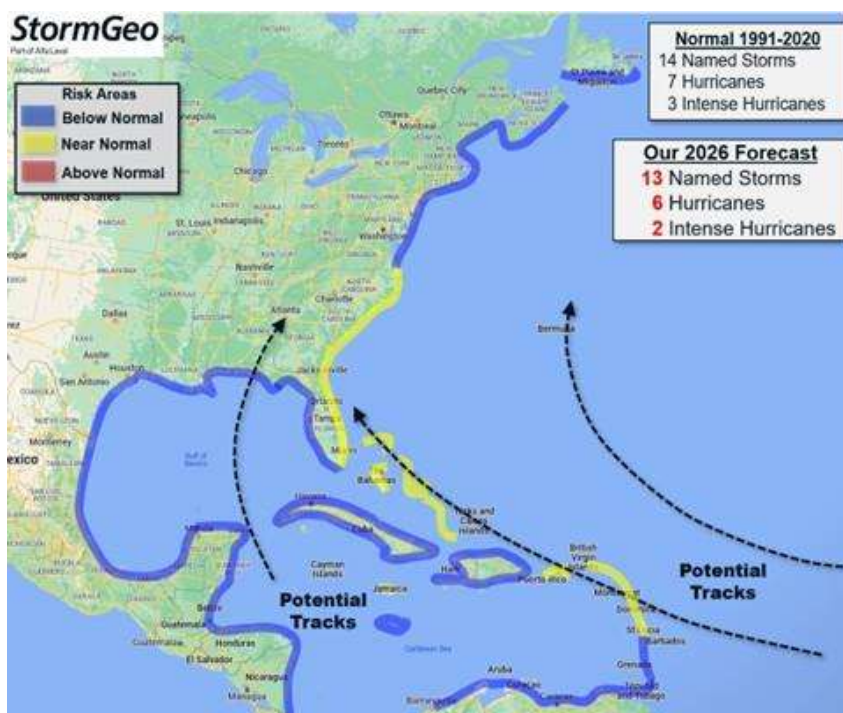
**Chris Hebert**  
Senior Meteorologist,  
TropicsWatch Manager

## 2026年大西洋におけるハリケーンシーズンの予測

### El Niñoエルニーニョ現象の再来

大西洋の熱帯低気圧に影響を与える要因：

- ✓ エルニーニョ現象の再来
- ✓ ウインドシアが強まる可能性
- ✓ 過去に類似の現象が発生した年は、カリブ海北西部でハリケーンが発達。



2026年リスク地域

## 今シーズンの見通し

2026年のハリケーンシーズンの到来は間もなくです。この見通しでは、今シーズンのハリケーンがどのような傾向になるかを見極めるため、いくつかのキーとなる指標について考察します。次回の更新は5月中旬に予定しています。

## El Nino エルニーニョ現象 / La Nina ラニーニャ現象

2025年のラニーニャ現象は収束し、今夏までにエルニーニョ状態へ移行すると予想されています。一部の気象モデルでは、比較的強いエルニーニョ現象となる可能性が示されており、太平洋東部の熱帯海域の海面水温が平年より高くなり、この海域での対流活動や熱帯低気圧の活動が活発化するとみられます。この変化により、太平洋海域では大気が不安定になり、上昇気流が発生しやすくハリケーンが増加しやすくなるとみられます。一方で、カリブ海及び大西洋熱帯域では下降気流が発生しやすくなり、熱帯低気圧の発達を抑制する傾向になる可能性があります。その抑制の程度は、8月から9月の最盛期にエルニーニョがどの程度強まるかに左右されます。もしエルニーニョがさらに発達すれば、今シーズンの大西洋域におけるハリケーンの活動は低調になる可能性が高いでしょう。

### 大西洋の海面水温

カリブ海東方の海域では、冬季に東寄りの貿易風が強まったことから海面水温は平年をやや下回っています。一方、カリブ海全域の海水温は平年よりやや高く、メキシコ湾及び大西洋の亜熱帯域では平年を大幅に上回る高温となっています。このような暖水域と冷水域の分布は、今後のハリケーンシーズンの大気循環パターンを予測する上で重要な指標となります。海水温度の上昇は熱エネルギーの増加につながり、大気の状態が揃うとハリケーンを強く発達させる要因となりえます。現在の大西洋の海面水温パターンは、過去にハリケーンの活動が平年を下回ったシーズンと概ね一致しています。

### ウィンドシア

ヨーロッパの長期予報モデルによると、今シーズンのカリブ海および大西洋の熱帯域ではウィンドシア(局地的に風向・風速が急激に変化する現象)が平年より強まる可能性が示されています。これは、ハリケーンシーズンの最盛期に強いエルニーニョ現象が発生する予測と関連しています。カリブ海やその東方海域では、ウィンドシアが強まることによりハリケーンの発達が抑制される見通しです。一方、こうした強いシア条件がメキシコ湾北部まで広がらない場合、メキシコ湾沿岸域は比較的熱帯低気圧が発達しやすい環境となる可能性があります。

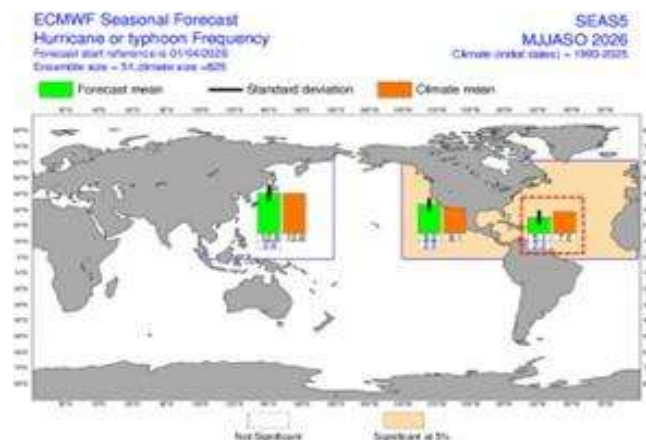
## 類似年シーズンとの比較

海水温度や大気の状態が現在と類似していた過去の年は、類似年シーズンとして参考になります。現在の熱帯地域の状況が過去の年と類似している場合、熱帯低気圧の発生頻度や進路、全体的な活動パターンも類似する可能性があります。2026年シーズンの予測の指標として、類似年を主要な年（Primary）と二次的な年(Secondary)に分類します。主要な類似年シーズンとの比較では、今シーズンの活動は平年よりやや少なく、命名された熱帯低気圧の総数は約12個、ハリケーンは6～7個、大型ハリケーンは2個程度と予想されます。これらの主要な類似年にはカリブ海北西部での熱帯低気圧の発達が見られたことも特徴で、メキシコ湾におけるハリケーンのリスクが上昇する可能性が示唆されます。

Year	Named Storms (normal = 14)	Hurricanes (normal = 7)	Intense Hurricanes (normal = 3)
1969	18	12	3
2006	10	5	2
2009	9	3	2
2015	11	4	2
2002	12	4	2
2012	19	10	2
2018	15	8	2
2019	18	6	3
<b>Avg. (primary)</b>	<b>12.1</b>	<b>6</b>	<b>2.25</b>
<b>Primary + Secondary</b>	<b>14</b>	<b>6.5</b>	<b>2.25</b>

## ヨーロッパの気象モデルにおける予測

ヨーロッパ気象モデルでは、2026年10月までの大西洋海域におけるハリケーンの活動は平年値を下回り、ハリケーンの発生数はわずか5個と予測しています。強いエルニーニョの影響を受ける年には、大西洋のハリケーンシーズンは早めに収束する傾向があり、11月までに終了する場合があります。



## 当社による5月初旬時点での予測

今年は、中度から強度のエルニーニョ現象が発生することが見込まれるため、熱帯低気圧の発生数は平年並みか、やや平年を下回ることが予想されます。カリブ海から大西洋東部にかけてウインドシアの強まりが予想されることから、熱帯低気圧の活動域は、バハマから米国東沿岸部を含む大西洋亜熱帯域の北側へ移行する可能性があります。同時に、メキシコ湾ではより熱帯低気圧が発達しやすい状況となる可能性があります。その結果、これらの地域における影響は平年をやや上回る可能性があります。

2026年に発生する熱帯低気圧の総数は13個、うちハリケーンは6個、大型ハリケーンは2個と予測されています。これは熱帯低気圧発生総数30個、ハリケーンの発生数7個、大型ハリケーンの発生数3個という過去30年間の平均値を下回る数値です。

最新の荒天関連情報はこちらをご覧ください

[StormGeo.com/weather-intelligence](https://stormgeo.com/weather-intelligence)

# 2026 Atlantic Hurricane Season Outlook

May 2026

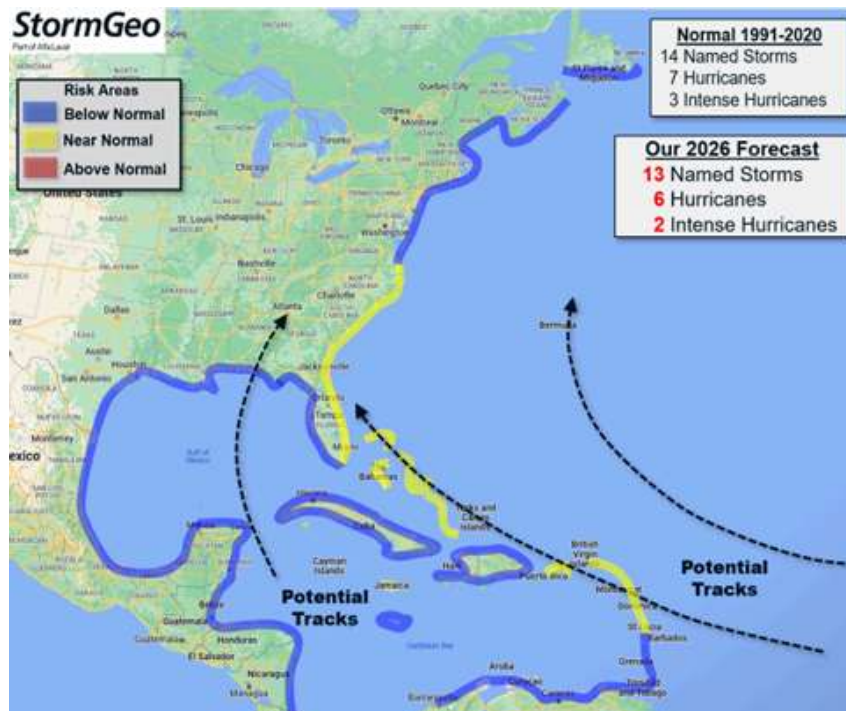


**Chris Hebert**  
Senior Meteorologist,  
TropicsWatch Manager

## 2026 Atlantic Hurricane Season Outlook: A Return of El Niño

Key factors influencing the tropical Atlantic Basin:

- ✓ Return of El Niño
- ✓ Potentially high wind shear
- ✓ Primary analog seasons featuring hurricane development in the northwest Caribbean.



2026 Risk Areas

## Season Outlook

The start of the 2026 hurricane season is fast-approaching. In this outlook, we will be looking at some of the indicators that can help identify what type of season to expect. There will be another update in mid-May.

## El Niño/La Niña

The La Niña event of 2025 has ended and is expected to transition to El Niño conditions by summer, with some models suggesting a potentially strong event. El Niño is defined by warmer-than-average sea surface temperatures in the eastern tropical Pacific, which typically enhances convection and storm activity in that region. This shift can increase hurricane formation in the Pacific basin due to greater instability and rising air. In contrast, the associated atmospheric pattern promotes sinking air over the Caribbean and tropical Atlantic, which can suppress storm development. The degree of this suppression will depend on how strong El Niño becomes during the peak months of August and September. If El Niño intensifies, it would likely lead to reduced hurricane activity in the Atlantic this season.

## Atlantic Water Temperatures

Sea surface temperatures east of the Caribbean are slightly below average, largely due to stronger easterly trade winds during the winter months. In contrast, temperatures across the Caribbean are above normal, while the Gulf of Mexico and the subtropical Atlantic are experiencing well above-average warmth. This distribution of warmer and cooler waters can help indicate the types of atmospheric flow patterns that may develop during the upcoming hurricane season. Additionally, elevated water temperatures can provide increased heat energy, potentially supporting stronger hurricanes if atmospheric conditions are favorable for development. The current Atlantic temperature pattern is broadly consistent with past seasons that have exhibited below-average activity.

## Wind Shear

The long-range European model indicates that wind shear may be unusually elevated across the Caribbean and tropical Atlantic during the upcoming season. This outlook is likely influenced, in part, by projections of a relatively strong El Niño developing during the peak months. Increased wind shear in the Caribbean and areas east of it would act to suppress hurricane development in those regions. However, if these stronger shear conditions do not extend northward into the Gulf of Mexico, the environment there could remain more favorable, potentially supporting nearshore tropical development during the season.

## Analog Seasons

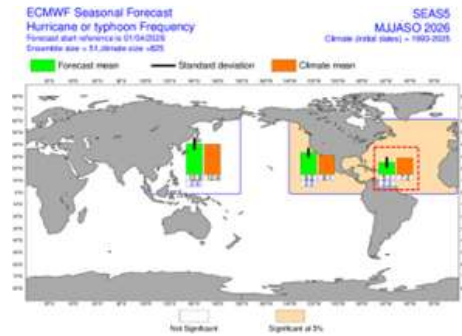
An analog season refers to a past year with ocean temperature patterns and atmospheric conditions similar to those currently observed. The premise is that when present-day tropical conditions closely resemble those of a historical season, overall activity may follow a comparable pattern in terms of storm frequency and track behavior. For the 2026 season, identified analog years are categorized as primary and secondary to guide expectations. The primary analogs suggest slightly below-normal activity, with approximately 12 named storms, 6–7 hurricanes, and 2 major hurricanes. Notably, these primary analog years also featured development in the northwestern Caribbean, indicating a potential for elevated hurricane risk in the Gulf of Mexico.

Year	Named Storms (normal = 14)	Hurricanes (normal = 7)	Intense Hurricanes (normal = 3)
1969	18	12	3
2006	10	5	2
2009	9	3	2
2015	11	4	2
2002	12	4	2
2012	19	10	2
2018	15	8	2
2019	18	6	3
<b>Avg. (primary)</b>	<b>12.1</b>	<b>6</b>	<b>2.25</b>
<b>Primary + Secondary</b>	<b>14</b>	<b>6.5</b>	<b>2.25</b>

## European Model Forecast

The forecast extends through October and indicates below-normal hurricane activity across the Atlantic basin, with only five hurricanes projected during this period. In years influenced by a strong El Niño, the Atlantic hurricane season often tapers off earlier, sometimes concluding by November.

The European model's projection of elevated wind shear across the deep tropics is a key factor supporting the expectation of reduced hurricane activity this season, as stronger shear generally inhibits storm development and organization.



## Our Early May Forecast

Signals for this year point to near-normal to slightly below-normal numbers of named storms, assuming a moderate to strong El Niño develops. With increased wind shear expected from the Caribbean to the eastern Atlantic, storm activity may shift farther north into the subtropical Atlantic, including areas from the Bahamas to the southeastern U.S. coast. At the same time, more favorable conditions in the Gulf of Mexico could support nearshore development. As a result, the likelihood of impacts in both regions may be slightly above average.

For 2026, the forecast calls for 13 named storms, including 6 hurricanes and 2 major hurricanes. This is below the 30-year climatological average of 14 named storms, 7 hurricanes, and 3 major hurricanes.

Find our Severe Weather resources at  
[StormGeo.com/weather-intelligence](https://StormGeo.com/weather-intelligence)